

# SHOW-HOUSEシネマリーフ

★★★★★

## 在りし日の歌 (地久天長／So Long, My Son)

2019年／中国映画  
配給：ピターズ・エンド／185分

2020（令和2）年6月6日鑑賞 シネ・リーブル梅田



監督：王小帥（ワン・シャオシュアイ）  
出演：王景春（ワン・ジンチュン）／詠梅（ヨン・メイ）／齊溪（チー・シー）／王源（ワン・ユエン）／杜江（ドゥー・ジヤン）／艾麗婭（アイ・リーヤー）／徐程（シュー・チョン）

### ■■ショートコメント■■

◆中国の「一人っ子政策」は特異なものだが、1949年の「新中国」建国後、「貧乏人の子だくさん」とはよく言ったもので、放置しておけば次々と人口が増え続け、食料、住宅、衣服、教育、等々あらゆる分野で経済的に成り立たないことが明らかになっていく状況下、共産党一党独裁体制ならではの、ものすごい「政策」が実行（強行）された。そして、それは、1980年のことだ。

◆本作は、1980年代初期の同じ日に生まれた2人の男子・劉星（リウ・シン）と沈浩（シェン・ハオ）を義兄弟とした、劉星の両親である劉耀軍（リウ・ヤオジュン）（王景春（ワン・ジンチュン））と王麗雲（ワン・リーユン）（詠梅（ヨン・メイ））、そして沈浩の両親である沈英明（シェン・インミン）（徐程（シュー・チョン））と李海燕（リー・ハイエン）（艾麗婭（アイ・リーヤー））という2つの家族の物語だ。

◆中国共産党は去る2020年5月22日に、コロナ騒動のため延期していた第13期全国人民代表大会第3回会議を開催した。その議事内容を見ると、今や米中の新冷戦時代に突入した感が強いが、本作は、冒頭に登場する子供時代の劉星と沈浩が遊んでいる中、ある事故で劉星が死亡してしまうところからスタートする。そして、そこから2010年頃までの約30年間の「友情と愛情の久しきこと天地の如し」が描かれる。したがって、本作の邦題は『在りし日の歌』だが、原題は『地久天長』。そこでは毛沢東が指導し、1967年から始まった文化大革命が1978年に終焉した後、鄧小平の指導下で始まった1980年代の改革開放政策と一人っ子政策の30年史が劉耀軍と王麗雲夫妻を軸として描かれていく。

もっとも、本作は3時間5分の長尺であるうえ、王小帥（ワン・シャオシュアイ）監督はあえて時間軸をごちゃや混ぜにしているうえ、近時の邦画のような説明調は全くないから、現代中国の歴史を全く知らない人にはわかりづらいかもしない。

◆本作は、導入部で少年期の劉星の死亡が描かれた後、思いがけず王麗雲の妊娠が判明し、一人っ子政策の中でもあえて2人目を生もうという選択をした劉耀軍・王麗雲夫妻と、それを知った工場の副主任で計画生育のトップという立場にある李海燕が絶対にそれを阻止しようとするせめぎ合いが中盤のハイライトになる。しかし、これについても、時系列が少しあわりにくい。

さらに、王麗雲が強制的に第2子の堕胎をさせられた後に、第2の星星（シンシン）（？）が登場してくるので、アレレ・・・？もっとも、高校生として登場してくるこの第2の星星（王源（ワン・ユエン））はえらく父親に反抗的で、結果的には家出してしまって、ストーリー全体をみればその関係はしっかり理解できるから、その真相はあなた自身の目でしつかりと。

◆改革開放政策が始まる中、西欧流の音楽やダンス、そしてファッショングが次々と入り込んできたのは仕方ない。本作では、それを劉耀軍の同僚チャン・シンジエン（趙燕國彰（チャオ・イエングオ・ジヤン））と彼に思いを寄せる女性ガオ・メイユー（李菁菁（リー・ジンジン））が大音量で流すカセットテープの音楽に乗って踊るシークエンスで演出しているので、それにも注目。さらに、沈瑛明の妹で劉耀軍を兄のように慕う女性・沈茉莉（シェン・モーリー）（齊溪（チー・シー））が登場し、あの時代に「アレレ、そこまで大胆な・・・」と思うようなストーリーが展開していくので、それにも注目したい。

私が大学時代を過ごした1960年代後半には、いわゆる「ダンパ」と呼ばれている「ダンスパーティ」に出かけて行き、女の子を引っかける、今ドキの言葉では「ナンパする」ことに精を出す友人がいたが、何でも自由な日本では、当然それもあり。しかし、いくら改革開放政策を進めているとはいえ、中国では「舞踏会」は風紀を乱すという理由でチャン・シンジエンの逮捕という大変な事態になることに。

◆本作ラストでは、立派な医師に成長した沈浩（杜江（ドゥー・ジヤン））が母親・李海燕の治療にあたる姿が登場するとともに、彼の口から少年時代の劉星の死亡理由が語られるから、かなり緊迫した状況になる。それを聞いた劉耀軍・王麗雲夫妻の対応は？

本作では第69回ベルリン国際映画祭で最優秀男優賞と最優秀女優賞をダブル受賞した劉耀軍・王麗雲夫妻と、沈英明・李海燕夫妻を軸とした中国の近代30年史の大変さが描かれる。また、それと同時に、チャン・シンジエンと一緒に広東省に行ったガオ・メイユーや、さらに、夫と離婚して単身アメリカに向かった沈茉莉も、劉耀軍・王麗雲夫妻と同

じ30年間においては、それぞれ大変な人生を歩んだことが描かれる。

本作はそんな3時間5分の長尺だが、『地久天長』という原題どおり、多くの登場人物の人生模様がぎっしり詰め込まれているので、それをしっかりと観察し、味わいたい。

2020（令和2）年6月10日記